

府中かんきょう市民の会

NPO法人 府中かんきょう市民の会々報
2012年 秋号 10月10日発行/季刊
発行人：竹内 章
連絡先：府中市分梅町 1-20-3
TEL 042-364-3428

とよあしはらのみずほのくに 豊葦原の瑞穂の国 —稲刈りとハサかけの巻—

田んぼの学校の稲刈り・ハサかけ作業が9月22日(土)の8:30から12:00まで開催された。前日が大雨だったため天候が心配された。しかし、当日は曇り空で幸いにも雨にはいらなかった。参加者は生徒45人中39人で、今期いちばんの多さだった。さらに保護者、東京農工大関係者、スタッフの約45人を含めると80人を優にこえた。

ちなみに、「豊葦原の瑞穂の国(とよあしはらのみずほのくに)」とは日本の美称であり、広々とした豊かな葦原にみずみずしく美しい稲穂が実る国というような意味。

稲作文化の伝承を

ピヨピヨさん(準備体操)がはじまると、スタッフと農工大生のユーモラスな仕草が参加者をリラックスさせる。肩の力がぬけたところで、前日の雨で液状化した田んぼに子供たちが恐る恐るはいった。「キャ!」「助けて!」などの歓声とも、悲鳴ともつかない彼らの声が泥田にひびく。

泥田のなかでは子供たちがスタッフに稲の刈り方を教えてもらい、なれない手つきと腰つきで稲を刈ってゆく。その稲を運ぶため板を敷き、スタッフと保護者を含めた6~7人の手渡しリレーで畦まで運ぶ。

次世代の子供たちが、弥生時代からの稲作文化の一端を体験することは、まことに喜ばしいことだ。そして、稲作文化を伝承していくことが肝要。



泥んこ遊びは楽しいぞ

稲を刈り取った場所が徐々に広がってゆくと、その空間が子供たちの格好の遊び場と化す。泥のなかを飛び回る男の子と女の子。衣服も顔も泥んこである。小さな生き物を追いかけて、泥んこ遊び、水遊びなどの自然を相手にすると、

実に生き生きしてくる。

主役はカエルだ。劇的に減って、絶滅が危惧されているトウキョウダルマガエルもいる。そのほかカマキリ、バッタ、アメリカザリガニなどが次々と子供たちの遊び相手となる。

ヘビをみつけたといって捕まえてくる男の子もいた。ヘビをつかみ、「名前を教えてください!」とせまる子供に、スタッフもおっかなびつくり。たぶん、シマヘビの赤ちゃんだと思うが、その子の保護者がペットボトルにいれて観察。田んぼには、多くの生き物が棲息する。



農工大のお兄さんに稲を手渡す幼児

「もったいない」が死語に

最後のハサかけ作業となる。畦に運んだ刈り取った稲4~5株をひもで結び、2週間ほどハサにかけて天日干しする。しかし、作業の要領がつかめない生徒には、「多すぎる! 少なすぎる! 結び方が違う!」などと、スタッフからやり直しの指示がとぶ。また、刈り取り後の落穂ひろいもみんなで行う。

私が子供のころには、「お百姓さんがお米を1粒作るのも、たくさん作るのもお同じ手数をかけるのだから、1粒でも大事にしてください」と、親によくいわれたものだ。使い捨て文化が定着した現代では、「もったいない」「足るを知る」などの言葉が死語になりつつある。

先見の明あり

田んぼは、主食であるお米の生産の場であり、多様な生物の棲息場所でもある。府中市は東京都のほぼ中心部にある。すると、東京都の中心に田んぼがあるということだ。これは結構、インパクトのあることではないか……。

昔、本町農場は売却の恐れがあった。しかし、東京農工大の反対によって国が断念したと聞く。先見の明ありで、敬意を表したい。地域住民と密着した本町農場は、都市における稲作文化の体験の場、かつ貴重な緑の空間として、府中市民の大きな財産となるだろう。(葛西利武)

スタッフに稲刈りを教わる生徒

広がればいいな 『クール・エコ』

一府中市民クールキャンペーン

厳しい暑さをなんとかしのぐと、平成24年8月1日(水)に府中市宮町の専門店街・フォーリス光と風の広場で、『クール・エコの集い』が開催されました。

「府中市環境保全活動センター」としての初のイベントであり、大手企業や市民団体、活動センターに登録されたサポーターなどの協力により盛大に開催されました。

キャンペーンのメイン行事として企画した、夏の風物詩である伝統文化の「打ち水」は、節電と熱中症対策として市民の間に広げて行こうとするねらいもあります。



フォーリス前の打ち水 8月1日午後5時

1日の午後3時より、「フォーリス光と風の広場」に設けられたエコハピステージでは、東京ガスによる「環境クイズ」として“地球温暖化が進むと何がおきるか”等のクイズや、和文化研究会による浴衣帯の花結びデモンストレーション、(株)nemoエンタープライズの若手タレントによる浴衣のファッションショー、ゆりーとダンサーズによる和装パレーなどの実演が行われました。

午後4時から、熱中症予防として大手企業から提供されたペットボトルの飲料水400本を無料配布したところ、20分ほどでなくなりましたが、通りがかりの市民は冷たく冷やした飲料水を顔にあてながら涼を楽しんでいました。

午後5時から「打ち水」を開始し、府中市長や市議会議長も浴衣姿で参加された他、浴衣のファッションショーに参加したタレントをはじめ、イベントに参加された市民団体のメンバーを含め、約50名の方々がフォーリス前に一列にならび、司会の合図により一斉に「打ち水」を行いました。買い物客も次々に参加され「打ち水」の輪が広が

りました。

地面の温度を測定した結果、15分ほどで31.4度から29.4度まで2度下がり、足元に涼しい風を感じることができました。

府中市として初めての「打ち水」キャンペーンでしたが、大手企業や市民団体の多大な支援活動を受け、総勢約800人をこえる参加者となり成功裏におわることができました。

多摩地域でも初めてのイベントとなり、マスコミにも取りあげられ新聞報道や地元のケーブルテレビでも放映されました。

「府中市環境保全活動センター」としても「浅間山公園のヤマユリ観察会」につづく初のイベントとなり、これを機会に毎年の恒例行事とすることも検討しています。

「活動センター」がこの計画を企画した段階では予算もなく、どのように進めるか頭を悩ましたが、幸いにも地元のボランティア市民団体や大手企業4社から多大な支援をいただくことができ、無事終了することができました。

ちなみに、(株)フォルマからの会場提供をはじめ、東京ガス多摩支店からはキャンペーンのチラシ、ポスターの印刷と「打ち水」に使う手桶50個、サントリーフーズからはペットボトルの飲料水500本、キューピー中河原工場からはペットボトルの飲料水100本と「打ち水」に使う地下水を1トン提供していただきました。

このような企業のご支援のもとに、「クール・エコの集い」が開催されたことを、お伝えしたいと思います。

(府中市環境保全活動センター運営委員
竹内 章)



浴衣のファッションショー

第12回バス見学会

かわさきエコ暮らし未来館 川崎市日本民家園を見学

9月25日(火)「かんきょう市民の会」第12回バス見学会を実施しました。

参加者数は33名(内会員16名、一般市民17名)でした。行先は「かわさきエコ暮らし未来館」および「川崎市立日本民家園」でした。

天候は曇りで、気温は18℃～22℃で快適な旅行日よりでした。

旅程は大國魂神社前8時30分集合、8時53分発、帰着は16時28分で、予定通りでした。

かわさきエコ暮らし未来館



浮島太陽光発電所と説明を熱心に聞く参加者



「かわさきエコ暮らし未来館」は昨年(2011年)8月に東京湾岸の川崎市浮島に川崎市が開設した環境学習施設で、地球温暖化対策や家庭でできる節電対策、太陽光発電などの再生可能エネルギー、ごみなどの資源循環について小中学生を含む市民が学ぶことを目的にしています。

施設内の紙やプラごみの中間処理施設と併せて見学しました。

隣地には東京電力が設置した浮島太陽光発電所もあり、こちらも見学できました。

浮島太陽光発電所は、約11haの土地に38,000枚の太陽光パネルを置く大規模なもので、発電電力は最大7,000kw 計画発電量は年間約740万kwh、初年度1年間の実績は945万kwhだったとのこと。



日本民家園の古民家のたたずまい

川崎市立日本民家園

「川崎市立日本民家園」は、生田緑地の中にある古民家園です。

急速に消滅しつつある古民家を永く将来に残すことを目的に、1967年に開園されました。

日本民家園では、東日本の代表的な民家をはじめ、水車小屋・船頭小屋・高倉・歌舞伎舞台など25件の建物をみることができます。このうち、18件は国や県の重要文化財として指定を受けており、民家に関する民俗資料なども収蔵し、日本を代表する古民家の野外博物館の一つです。

施設の運営は、炉端の会と民具制作技術保存会の2つのボランティア組織として、近隣の市民が参加しており、園内ガイドや設備の維持管理などを行なっています。

約1時間の見学時間だったため、10棟程度の建物の見学にとどまりましたが、昔からの日本の自然に応じた生活の形を見ることができました。

エコ暮らし未来館では、今後の暮らしの方向性を、日本民家園ではこれまでの暮らしの知恵を具体的な形で知ることができ、有意義なバス見学会でした。



囲炉裏の前で古民家内部を説明してもらう

生物多様性と 崖線の保全

星野義延先生の講演要旨

私たちの住む府中市民にとって、貴重な府中の崖線の理解を深めるため、平成24年7月14日(土)西府文化センターで、NPO府中かんきょう市民の会(担当:西府崖線・湧水保全チーム)の主催で、「後世に残そう!ふるさと景観〜ハケと湧水〜」を合言葉に、植生学・植生管理学がご専門の東京農工大学・星野義延准教授に講演をしていただきました。演題は「生物多様性と崖線の保全を考える」です。とても参考になりましたので、講演の主な4つのメニューについて要旨を報告いたします。



パワーポイントを使用した星野先生の講演会

「地域の生物多様性の保全」について

生物多様性の保全とは、一口でいえば「地域に残る自然と生物をまもる」ことです。とまとめられました。

詳しくは、生物多様性は単に生物種の数の多さを意味するものではなく、同じ種内に含まれる遺伝的多様性や生育地の生物関係の複雑さなども含む概念で、普通は遺伝的多様性、種の多様性、生態系の多様性の3つのレベルとして考えられている。との解説をいただきました。

関連して、「なぜ生物多様性の保全が重要なのか」については、「人間は地球上の生物や生態系の恩恵(生態系サービス)を受けてきた。人類がこれからも生物からの恩恵を受け続けるには、いまある生物資源を利用しながら次世代に引き継がなければならない」と説明をしていただきました。

一方、都市のなかには公園などあるが、園芸植物などの植栽で、本来の自然とは異なってしまった。また、都市への人口集中は自然が遠のき、健康で豊かな生活のためには自然が必要であり、都市住民が生物多様性の保全に果たす役割は、非常に大きいことが認識されるようになった。と植生の自然と人工の状態を解説くださいました。

「緑の基本計画と緑の現状」について

緑の基本計画は、都市における緑地の適正な保全と緑化の推進方策に関する、目標や施策について定めるマスタープランで、緑比率の設定は当然であり、生物多様性や自然の質・価値を明記することが適切である。

まちづくりに関連して、生物多様性国家戦略2010では、都市の生物多様性の保全対策として、100年先の都市を目指し、水と緑のあふれるまちづくり、身近な自然とのふれあい、地球規模の視点に立った行動などが定着してきている。と記述されているとの説明でした。

「崖線の植生」について

崖線の植生については、府中国分寺崖線の2つの植生モデルで説明されました。

1例目は、急斜面で凸型斜面の自然林の植生です。植物群落名は、シラカシ〜ケヤキ林で、シラカシ、ケヤキ、ムクノキ、シロダモが代表種である。

2例目は、緩斜面で凹型斜面には、二次林〜コナラ林でクヌギ、ヤマザクラ、ネザサ、チゴユリ、アキノキリンソウなどが代表種である。

植生や植物相は、地形との関連が深く、地形との関連性を確かめることも重要である。

なお、「府中の雑木林の植物の昔」の説明も少々解説していただきました。



西府崖線 わき水横の池のコイとカルガモ

「まちの自然を調べる」ことについて

2003年「府中の植物を記録する会」の設立は、生物多様性が大事であり、農地を含む私有地は今の緑地計画では残らないことを見通して、消え行く府中の植物がかって分布していたことを証明する証人となることを目的とし、現在も観察会や記録会、勉強会などを定期的で開催する。

また、多摩東京移管100周年を契機に、「TAMAらいふ21」という研究会が立ちあげられ、「湧水や崖線の保全」についても活動をしている。と貴重な事例をあげられました。講演要旨は以上のおりで、質疑応答を行い、講演会は予定通りに終了しお開きになりました。(大崎清見)

西府崖線保全活動の紹介

NPO法人・府中かんきょう市民の会が、1999年(平成11)に西府崖線保全活動にかかわってからはや13年。昨年5月にはチームを再編し、さらに活動を強化した。その新チームによる約1年余(昨年6月～今年7月)の活動を紹介します。これらの活動は市の環境政策課の協力をえている。

なお、2005年(平成17)から西府わき水の湧水量を毎月測定し、年2回水質検査も行っている。

☆2011年の活動

第1回わき水まつり

- パート1 6月17日(金)雨曇 18日(土)曇雨
市川緑道あずまや前 10:00～16:00
※展示解説・対話・アンケート(立寄り約80人)
- パート2 7月3日(日)晴 13:30～16:00
西府文化センター 市民座談会(19人)

第1回清掃活動

- 日時 11月23日(水) 晴
①清掃活動 10:00～11:30
②茶話会 11:30～12:00
- 場所 ①あずまや前～本宿トンネル周辺
ハケ上～湧水池
②あずまや前～大山路
- 参加者 13人
ゴミ回収 燃えるゴミ5袋 燃えないゴミ14袋等

☆2012年の活動

第1回樹木名札づけ

- 日時 5月7日(月) 晴
エリア あずまや前～わき水～わき水階段～
ハケ上の西府文化センター手前
- 参加者 10人
名札づけ樹木 49本(27種類)
※名札つき樹木の特徴・一口メモ作成



清掃作業をおえて全員集合。あずまや前で記念撮影(2012年5月12日)



キツネノカミソリ観察会(八月九日)

キツネノカミソリ保護活動



ヒガンバナ科の多年草。崖線、山野の樹陰にはえる。8～9月に橙色の花が長い花茎の先に数個咲く。名前の由来は、葉の形がカミソリに似て花の色がキツネ色に近いからのような。

場所は鎌倉街道本宿トンネル東側の本宿緑地。3月から保護活動をし、周りにロープを張り、写真入りお知らせ用紙をぶら下げる。今年の本宿緑地では、約300本の花が観察された。説明紙には、「貴重な植物(キツネノカミソリ)を保護しています。立ち入らないようにお願い致します」と記載。

第2回清掃活動

- 日時 5月12日(土) 晴
※清掃活動、茶話会、清掃場所は第1回清掃活動に同じ。
- 参加者 20人
ゴミ回収 燃えるゴミ15袋 燃えないゴミ12袋等

第2回わき水まつり

- パート1 6月8日(金)曇 9日(土)曇雨
市川緑道あずまや前(10:00～16:00)
※展示解説・対話・用水路の生き物観察・アンケート。東京農工大生5人が参加し、用水路の生き物を展示し子供たちに大好評だった(立寄り約100人)。
- パート2 7月14日(土)晴 13:00～16:00
西府文化センター(19人参加)
- ①講演 生物多様性と崖線の保全を考える。
講師 星野義延(東京農工大准教授)
- ②ビデオ上映 ハケのある風景を歩く:
府中・国分寺
制作 渡辺實(NHK映像クラブ所属)
(葛西利武)

環境に関わる 府中市の事務事業点検

事務事業点検の経緯・目的と概要

(1) 経緯・目的

平成22年12月に発表された「府中市行財政改革推進プラン」の中で、「市民サービスの向上とコストの削減を図るため、…事務事業の必要性から検証する事業仕分けの実施などにより、より一層多面的な側面から事務事業の評価とそれに基づいた見直しを行い…」とされました。平成23年第1回市議会定例会の開会での野口市長のあいさつの中でも、同様の趣旨の説明があり、近年の市財政の厳しさへの対応策の一つとして行われているものです。

(2) 概要

国が行なっている事業仕訳と同様の作業を、府中市として行なうものです。

市の各事業の中から120事業を選定し、毎年40事業を平成23年から25年の3年間で点検するもので、事業点検の進め方は国及び他の地方自治体の事業仕訳の実施に関してノウハウ・経験をもつ政策シンクタンク「構想日本」の協力で行われました。

評価点検の手順は、事前に提出された事業シートに基づいて、国の事業仕訳同様に、担当の市職員が説明した後、市民委員や外部点検委員主導の質疑応答があり、評価を多数決で判定するものです。

平成23年度事務事業点検の状況

(1) 評価

平成23年度に実施した40事業の評価は、点検結果ベースで不要(廃止)0事業、再検討・見送り(平成24年度の抜本的見直しと同義)10事業、要改善27事業、現行通り2事業、制度変更により助成が不要になり評価対象外となったのは1事業で、またその後、府中市の評価変更で、再検討・見送り10→1事業に、要改善27→33事業に、現行通り2→5事業に変更されました。

(2) 予算削減効果

平成24年度当初予算で見ると評価対象外となった1事業を除く39事業で、1億4,000万円強の削減(前年比3.6%減)の結果となっています。

府中市は、全体での一般予算作成時の基準を7%程度の削減として掲げていることを考えると、今後のより多くの成果に期待したいところです。

平成24年度事務事業点検の概況

平成24年度に事務事業点検を実施した40事業は、点検結果ベースで不要(廃止)5事業、抜本的見直し(平成23年度

の再検討・見直しと同義)10事業、要改善25事業、現行通り2事業、という結果でした。

今後、府中市庁内による評価を行なった後、平成25年度予算以降に評価結果を反映することになるそうです。

一般市民として、また納税者として税金の有効な活用と節約、本当に必要な事業にはそれなりに予算をつける、メリハリのある財政運営を期待したいところです。

今年度の事務事業点検で特に生活環境に関わる事業

平成24年度に事務事業点検を実施した40事業には、私たちの生活に直接かかわりのあるごみ処理に関する事業も含まれていました。

有料ごみ収集管理事業とリサイクル推進事業です。現在の府中市ごみ処理事業の大きな目標には、環境基本計画などで定められた「ごみ50%削減」「すべての市民・事業者との協働による循環型社会の実現」「リサイクル率日本一」があります。

そして、府中市は平成22年2月2日からこれまでのダストボックスによるごみ収集を、ごみ収集の有料化、個別収集化、分別区分の増加に収集方法を変更しました。その変更による成果もあり、ごみの削減は平成13年度と比較して平成23年度は36%の削減を達成し、ごみ50%削減の目標まであと14%まできている状況にあると説明がありました。

平成22年から行われたダストボックス廃止・ごみ収集有料化は、府中市にとっても大きな施策変更でもあり、傍聴人の数もほぼ席を埋め尽くすほどの状況下での議論となりました。



事務事業点検何?
限られた財源の有効活用を図るため、事業仕分けの手法を用い、市民や外部の専門家の意見を聞きながら、市の事務事業を公開の場で検証する事務事業点検を実施します。

平成24年7月28日(土)・29日(日)
午前9時～午後5時25分

事務事業点検
事業仕分けの手法を活用!

会場: 府中市役所北庁舎3階会議室

点検対象事業などは別冊をご覧ください。

点検作業
点検は2班体制で行い、各班はコーディネーター1人と点検委員5人の計6人で構成します。
なお、実施に当たっては、国や地方自治体実施の事業仕分けに関して豊富な実績と経験を有する政策シンクタンク「構想日本」の協力を得て行います。

点検作業の流れ(1事業40分/全40事業)

- 事業担当者による説明(5分)
- 点検委員による点検(30分)
- 点検委員による事業評価(5分)

点検結果の取り扱い
点検結果は、行政評価結果などとともに、市の方針を決定するための判断材料とします。

他市との比較では、多摩26市中、一人あたりのごみ量は平成22年度では最も少なくなり、全国ベースでも4位(人口10万～50万人)の位置につけています。

リサイクル率も平成23年度で42%(含む焼却灰)で、多摩26市中良い順で4位、全国ベースで7位(人口10万～50万人)との報告です。

多数の市民が傍聴した府中市事務事業点検。市民に拳手を求められる場面も…



点検委員からは、「これほどに高いごみ減量とリサイクル率を達成しているのに、これ以上のごみ減量推進はコスト的に合わないのではないかと、人口増もこの間にはあっただろうし、目標を見直したりした方がいいのではないかと。」などの意見も出されました。

ダストボックスを廃止したとはいえ、集合住宅については、ほぼ従来と同様の一カ所に集積して集める方式のため、個別収集方式より分別の徹底などが不十分な状況もあり、改善の余地はまだあるとの声もありました。

また、点検委員から傍聴人に向かって「府中市のごみ50%削減、リサイクル率日本一」の目標を知っている人はどのくらいか、手を挙げていただけませんか」との問いにはほぼ全員が手を挙げたのを見て、目標の周知が徹底していることに感心した様子でした。

今年から始まった新たな環境基本計画策定作業の中でごみ減量についても検討されることになっていますが、事業点検で基準となったごみ減量によるごみ処理コストの削減の他に、ごみ減量にはCO2削減や、多摩川衛生組合のごみ焼却工場の延命化など、いくつかの目的があるようです。

私たちは府中市民の一人として事務事業点検の資料、点検結果も精査しながら、ごみの問題に取り組んでいく必要があると思います。
(小西信生)

畑の学校とスイカ祭り

「畑の学校」がNPO法人かんきょう市民の会から独立し、再スタートして早や4年になる。その間、会員も、耕地面積も増え、運営方式も試行錯誤を重ね曲がりなりにも成長し、いろいろな事を学び、体験している。

かんきょう循環型農業⇒苗購入せず、種子から栽培する圃場から廃棄物を出さず、堆肥化してリサイクルする、雨水・落ち葉の活用…を目指し、みんなで作業し、みんなで収穫物を持ち帰る、の方針の下、しかも、楽しく作業し、単に栽培技術だけでなく、食とかんきょう、料理や健康の話題などにも広げ、市民農園では得られないファームメイトを形成している。

野菜は通年で40種超える

旬のものなら何でもありで、豆類(☆えんどう豆、☆インゲン豆、☆エダマメ、ソラマメ、等)、根菜類(☆ジャガイモ、☆サトイモ、☆カブ、☆ダイコン、☆ニンジン、☆サツマイモ、☆ゴボウなど)、葉菜類(☆タマネギ、☆ネギ、☆ワケギ、☆春菊、☆ほうれん草、☆小松菜、☆ベンリ菜、☆水菜、☆レタス、☆ブロッコリー、☆キャベツ、☆白菜など)、果物類(☆スイカ、☆イチゴなど)、果菜類(☆トマト、☆キュウリ、☆ナス、☆ピーマン、☆シシトウ、☆オクラ、☆カボチャ、☆トウモロコシ、☆ニガウリなど)、中国野菜(☆チンゲンサイ、☆中国菜心)。

☆印は必須作物で、以外のは事前了解を求める。延べ年間栽培野菜数は40種を超える。季節別に年間作付け計画をつくり、作物別に主担当を決め、ベテラン栽培者を目指してもらおう。変わったものに、皇帝ダリア、ツタンカーメンのえんどう豆、八升豆、パンダ豆なども栽培している。

“スイカ祭り”で交流も

会員の絆を強め、協働ワークが円滑に進むように現在、日曜組と木曜組に分かれて作業しているが、月1回の全員登校日を設けている。さらに“イチゴ狩”や、8月19日の“スイカ祭り”では農家の冷凍庫で冷やしてもらったのをみんなで立ち食い。

収穫したトウモロコシ、エダマメ、トマトを茹でたり、冷やしたりして会員が提供してくれた。さらに“男の料理教室”落窪講師による「畑の学校 悪あがき料理フォーラム」と称して、学校で作った野菜を使って子どもが腕を揮ったペペロンチーノとカボチャのクリームスープは奥様方にも好評だった。

昨今の異常猛暑で、農作物も人間もその対応に苦労しているが、前向きに捉え、会員の知恵と努力で畑の学校を、理想的な市民の農園にして行きたい。

(竹田 勇 畑の学校々長)



環境配慮住宅型施設見学記 小金井市

環境配慮住宅って何？

外気は30度を越えた7月末にここを訪ねてみました。引き戸を開けて中に入ると、室内はひんやり感じられます。室温は29度、足元は27度。天井に触れると冷たい。床下からくみ上げた雨水によって天井を冷やし、室内を涼しくする仕組みだと説明を受けました。



併設されている「雨風カフェ」のカウンタ

適さを最大まで引き出していく。カフェの運営、イベントの実施などを行い、よりよい未来のあり方について、多くの方々と考えていこうとホームページで紹介されています。

建設・運営には、東京都環境局の「地球温暖化対策推進のための区市町村補助プログラム」を活用し、市民、専門家、NPO、大学、小金井市が協力しています。現在は管理委託を株式会社「セルコ」に、喫茶施設「雨風カフェ」は市民団体「ライフラボ」に委託されています。場所は小金井市貫井トンネル横、滄浪泉園緑地に隣接、小金井駅から徒歩10分。



体感型の環境学習の場として利用

この建物は60㎡のワンルーム2階建てで、2階部分には計測機器などが設置されています。研修室(2室・定員10名)は1時間200円で利用できます。午前9時から午後9時まで(毎週火曜日は定休)。6月の開館から20~30件の利用申請があり、多くは土日の利用で、勉強会や講習会に使用されているそうです。

喫茶施設「雨風カフェ」のメニューを紹介しましょう。月曜日はエスニック中心。水曜日と土曜日はサンドイッチ、カレー、キッシュ。木曜日は創作プレート。金曜日はピザ。日曜日は野菜中心の「ベジの日」。というように日替わりで、発酵食品を中心に地産地消を心がけているそうです。

小金井市環境政策課では今後の課題として、平日の利用者を増やす事と、一般の方がもっと利用しやすいようにPR方法などを工夫していきたいと述べていました。

府中市にもこのような施設があつて、そこを環境保全支援センターに利用できたらと思いました。

(梅沢みどり)

その他にもこの施設にはいろいろな工夫が凝らされています。
 ≪断熱遮断壁≫ 熱を遮断するための扉で、開閉によって陽の光や風通しなどを調節し、室内温度を調整します。
 ≪雨水利用≫ 床下に雨水タンクを設け、冷暖房用に利用。床は部分的に硝子張りになっていて床下の状態が観察できるようになっています。
 ≪太陽熱温水器≫ 冬は、床下の雨水タンクからをポンプアップした雨水を太陽熱温水器で暖め、床下のタンクにもどして、床暖房に利用します。
 ≪ペレットストーブ≫ 冬の陽の出ない日にペレットを燃やして、床下の雨水タンクの湯を暖めます。
 ≪雑排水浄化用砂層水路≫ 厨房の排水を、熊笹の葉を入れた池や建物の周囲にめぐらせた12mの水路に流し、微生物の力を借りて汚れを分解して、最終的に緩速濾過槽で、きれいな水に再生します。大体きれいな水になるまでに約半年かかるそうです。

小金井発、市民・行政・大学の共同プロジェクト

この施設は『NPO法人 グリーンネックレス』が建設を2009年に小金井市に提案し、市の施設として2011年9月に試行開始。2012年6月に正式に開館しました。

雨、風、太陽など、都市にもある身近な自然の力を最大限に使い、できるだけ商業エネルギーに頼らずに過ごせる環境配慮型住宅を建てて、みんなで使ってみよう！というプロジェクト。自然のエネルギーを電気に変えることなく、そのまま冷暖房に使うことで、木陰の涼しさや日だまりの暖かさのような自然な快